

「職業フォーラム」

真壁小学校

昨年の11月4日(木) 真壁小学校で「将来の夢をさがそう」のテーマの下、主に高学年の児童を対象に、子どもたちに望ましい勤労観や職業観を育てる「キャリア教育」を進めるため職業フォーラムが行われました。

これは、児童たちに「将来の夢や職業」、「なぜ学ぶのか」という学びの目的意識を育んでもらおうと、学校とPTA、実行委員会が協力して様々な職種から20人の職業人講師を招き、講義や実技を受講・体験しました。

講師を務めたのは、地元で商売を営んでいる方や公務員、二輪レーサー、声優、キャリアアドバイザーなど多様な職業に就いている方々。児童たちは、真剣に講師の方のそれぞれの仕事に対する夢・思い入れ・苦労話、実技などを、聞いて、見て、積極的に質問したり体験したりして、将来の職業の選択を考えるきっかけとなりました。



消防隊員からは、消防自動車などの装備の説明を受けました。(写真左)



二輪レーサーの新庄講師からレースの楽しさ、厳しさを学びました。(写真左)



陶芸家の出町講師からは、ろくろを使っての陶芸教室。(写真右)



パティシエの山藤講師からケーキの飾り付けを教わりました。(写真右)

未来を考える小学生たちの体験学習

～ 真壁小学校・坂戸小学校の取り組み ～

高学年児童は、重い妊婦ジャケットを着用。妊婦さんの大変な苦勞を疑似体験。(写真右)



低学年児童は、物売る疑似販売を保護者や地域の人を相手に行いました。(写真右)



中学年児童は車椅子体験。少しの段差でも車椅子には不自由をきたすことがあります。(写真左)



赤ちゃんの抱き方を教わりました。お母さんの気持ちがちよっとわかりました。(写真左)



昨年の11月13日(土) 坂戸小学校で、児童が家族・地域の方々と様々な体験学習や活動などを行う「さかどフェスティバル」が行われました。これは、11月のいばらき教育月間に家族や地域とのつながりを再認識し、家族や地域を愛する心が育つことを願い実施されました。

低学年児童は、「わくわくフェスティバル」に参加。物売る疑似販売体験を来場者相手に実施。中学年児童は、「やさしさの輪を広げよう」に参加し、アイマスクや車椅子を使い、体の不自由な方の体験。また、高学年児童は「いのちを見つめて」の学習で、妊婦ジャケット着用で疑似妊婦体験や赤ちゃん抱き方の体験を行いました。

朝のあいさつ運動、大好き家族標語の表彰もありました。参加した児童たちは、他人を思いやるやさしい気持ちを持ち、社会生活を営むための貴重な経験をしました。

「さかどフェスティバル」

坂戸小学校